

# 歴史が導く災害科学の新展開Ⅱ — 一人の記録、自然の記憶 —

日時:平成30年6月16日(土)13:00~17:00

場所:東北大学災害科学国際研究所1階 多目的ホール

アクセス:地下鉄東西線「青葉山駅」下車、南出口より徒歩約3分

\*駐車場はございませんので公共交通機関をご利用下さい。

当日参加可、事前登録は災害科学国際研究所HP (<http://irides.tohoku.ac.jp/>)より

講演(13:10-14:10)

北原糸子氏

(立命館大学歴史都市防災研究所客員研究員)

「災害復興の歴史学

— 明治三陸津波を踏査した山奈宗真の記録 —



研究報告(14:20-15:50)

蝦名裕一(東北大学災害科学国際研究所准教授)

「様々な歴史記録を用いた自然・災害の記憶の復元—岩手県宮古市を中心に—」

森口周二(東北大学災害科学国際研究所准教授)

「2016年台風10号の岩手県岩泉町乙茂地区の被害分析—工学と歴史学の融合—」

高橋誠(名古屋大学大学院環境学研究科教授)

「東日本大震災被災地の過去100年間の土地利用変化—地理学的観点から—」

川内淳史(神戸大学特任講師)

「津波被災史料からみる大船渡の近代—地域社会の記録にみる自然・開発—」

添田仁(茨城大学准教授)「関東・東北豪雨の水損資料に記された災害と治水の記憶」

コメント

菊池慶子(東北学院大学文学部教授)

加納靖之(京都大学防災研究所助教)

パネルディスカッション(16:00-16:50)

「人の記憶に学び、自然の記憶を探る」

コーディネーター:今村文彦(東北大学災害科学国際研究所所長)